

◎トラベルミン配合錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】 ジフェンヒドรามミンサリチル酸塩+ジプロフィリン (U) diphenhydramine salicylate+diprophylline 【分類】 鎮痛剤

【単位】 ◎錠 [ジフェンヒドรามミンサリチル酸塩 40mg+ジプロフィリン 26mg]

【常用量】 1回1錠, 必要により1日3~4回 (U) 最大300mg/日 (U)

【用法】 1日3~4回■かみくだくと苦味があり舌のしびれ感があらわれることがあるのでかまずに服用 (1)

【透析患者への投与方法】 透析患者の投与方法に言及した文献はないがおそらく減量の必要はないと思われる (5) 減量の必要なし (12)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 減量の必要なし (5,12)

【その他の報告】 急性腎炎の患者には腎臓に対する負荷を高めるおそれがあるため慎重投与 (1)

【特徴】 ジフェンヒドรามミンサリチル酸塩 40mg+ジプロフィリン 26mg を含有する。主として迷走神経を介して、前庭部より大脳皮質中枢への伝達経路に働き、脳幹の興奮を鎮静する。従って耳性眩暈 (特に急性発作性眩暈) を抑制し、随伴する頭重感を軽減する。また、悪心・嘔吐の原因となる悪心・嘔吐中枢の興奮を鎮静する作用を有する。オピオイド鎮痛剤によって内耳前庭器の μ 受容体刺激によるヒスタミン遊離によってもたらされる嘔気に対して有用 (動作時の吐き気)。

【主な副作用・毒性】 鎮静作用の持続、発疹、頭痛、神経過敏、悪心・嘔吐、下痢、動悸、眠気、倦怠感、頭重感、眩暈、口渇など

【吸収】 diphenhydramine 良好 (U)

【F】 diphenhydramine72% (13)

【tmax】 diphenhydramine1~4hr (U) diphenhydramine2~3hr (13) 【Cmax】 健常者に diphenhydramine hydrochloride を 50mg 静注後の Cmax は 230ng/mL 以下、健常者に diphenhydramine hydrochloride を 50mg 内服後の Cmax は 66ng/mL (13)

【代謝】 diphenhydramine 肝 (いくらかは腎) の P450 で代謝 (U)

【排泄】 代謝物として腎から排泄される (U) diphenhydramine の尿中未変化体排泄率 1.9% (13)

【CL】 diphenhydramine 6.2mL/min/kg、加齢により低下 (13)

【t1/2】 diphenhydramine1~4hr (U) diphenhydramine8.5hr, 肝硬変・加齢により延長 (13) 5.3~11.7hr (12) 【腎不全患者の t1/2】 データなし (12)

【蛋白結合率】 98~99% (U) diphenhydramine78%, 肝硬変により低下 (13) 80% (12)

【Vd】 4.5L/kg (13) ジフェンヒドรามミン 3.3~6.8L/kg (12)

【MW】 ジプロフィリン 254.25, ジフェンヒドรามミンサリチル酸塩 393.48

【透析性】 diprophylline : 透析クリアランス 108.7mL/min, 除去率 28% (Lam YW, et al: Clin Pharmacokinetics 32: 30-57, 1997)

【TDM のポイント】 TDM の対象にならない

【効果持続時間】 6~8hr (U)

【禁忌】 緑内障の患者 (抗コリン作用により眼圧が上昇するおそれがある), 前立腺肥大等下部尿路に閉塞性疾患のある患者 (抗コリン作用により、排尿困難、尿閉等が現れるおそれがある)。

【更新日】 20180502

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。